



自然と仲良く、
家族そろって。
日本一のナスを
育てます。

岡村周は農家の長男。「責任感もあったが、ずっと継ぐのも面白くない気がして」と、大学時代を福岡で過ごし、3年ほど会社勤めを経験。結婚を機に西山台地に戻ってきた。

父はスイカのスペシャリスト。「同じことやってもつまらん」と、ナスの栽培を始めた。近所でナスをやっている先輩にアドバイスをもらい、いまでは42アールのハウスを両親と妻の4人で仕切っている。

黒潮の海と山に囲まれた高知県では、昔から温室での野菜栽培が盛んだ。晴れば、夏は5時から昼までと3時から7時まで。冬は8時から暗くなる5時まで。季節に応じて作業時間が変わる。

手間をかけて良い土を作り水をまき、日光で蒸し込んで殺菌。害虫を食べてくれる天敵昆虫を活用するなどして、できるだけ自然に近い農法で健全なナスを育てている。

「見た目はごついけど、やさしい」と笑う同い年の妻とは、ほぼ24時間365日いっしょである。うまくいくもの? と聞けば、

「人間ができちゃったら喧嘩することもないわ」と夫はテレ、「仕事場でも家でも話が尽きない」と妻はさらりと。はい、ごちそうさま。

ここ室戸は台風や竜巻で大変なこともあるが、子どものことを気にかけて声をかけてくれたり気さくな人が多く、自然は豊かと誇る。

もちろん自身も、ナスが大好き。今夜も、仕事のあとのビール片手に、うちのナスで作る妻特製の「ナスのたたき」に舌つづみ。

ナス農家
岡村 周

室戸じと、
進む。